

4. 市民ニーズ

(1) 狛江市民センター(中央公民館・中央図書館)に関する市民アンケート結果

1) 調査概要

狛江市民センター(中央公民館、中央図書館)について、今後の改修規模や改修方法等を検討していく上での基礎資料とするためにアンケート調査を実施しました。調査は、令和2年2月～3月に実施し、827票の回答が得られました。

表 2-14 調査概要

項目	内 容
調査名	狛江市民センター(中央図書館・中央公民館)に関する市民アンケート
調査方法	郵送配布・郵送改修
調査対象	狛江市住民基本台帳から無作為抽出した18歳以上の市民2,500人
調査期間	令和2年2月20日(木)～3月27日(金)
調査内容	属性/利用状況/中央公民館・中央図書館に対する考え方 市民センターの改修についての考え方 等
配布数/回収数(回収率)	2,500票/827票(33.1%)

2) 調査結果

現在の中央図書館の利用頻度としては、「利用したことがない又は、ほとんどない」が最多で、43.2%を占めました。月1回以上の定期的な利用をしている回答者は約20%となっています。中央図書館に対する考え方としては、「中央図書館をさらに充実させてほしい」が66.5%を占めており、その理由としては「蔵書数を今よりも多くしてほしいから」21.8%、「本や新聞、雑誌を読むためのスペースを今よりも広くしてほしいから」18.2%、「今はあまり利用していないが、充実したら利用してみたいから」14.2%と続いています。

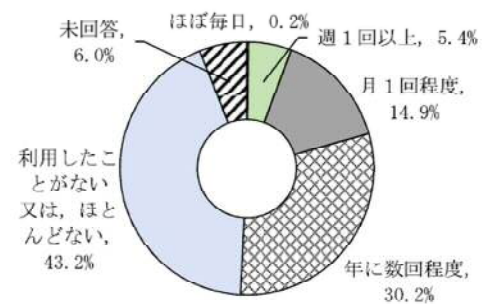


図 2-13 中央図書館の利用頻度

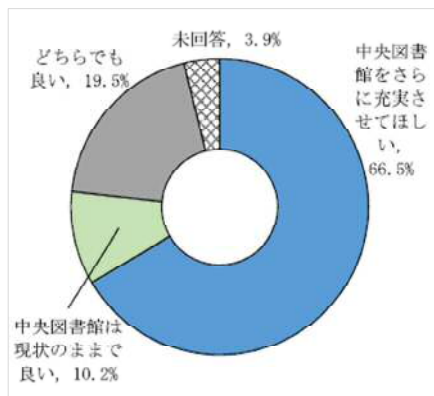


図 2-14 中央図書館に対する考え

表 2-15 中央図書館をさらに充実させてほしい理由

	票数	構成比	順位
蔵書数を今よりも多くしてほしいから	348	21.8%	1位
本や新聞、雑誌を読むためのスペースを今よりも広くしてほしいから	290	18.2%	2位
今はあまり利用していないが、充実したら利用してみたいから	227	14.2%	3位
読みたい書籍や資料等を今よりも借りやすくしてほしいから	167	10.5%	4位
開館時間を長くしてほしいから、行きたい時間帯や曜日に開館するように拡大してほしいから	153	9.6%	5位
IT環境の整備をしてほしいから	146	9.2%	6位
通路や書棚が使いづらいので、今よりも広くしてほしいから	143	9.0%	7位
子ども連れも気軽に利用できるような子ども用のスペースを今よりも広くしてほしいから	119	7.5%	8位
合計	1,593		

(2) 新図書館整備に向けた Web アンケート調査結果

1) 調査概要

(1)に示す市民アンケート結果を踏まえ、より詳細に市民の現市立図書館の利用状況や今後の市立図書館のあり方に関する意向を把握するため、改修後の市民センターに関する意向調査とあわせてWebアンケート調査を実施しました。調査は、令和3年8月～9月に実施し、244票の回答が得られました。

表 2-16 調査概要

項目	内 容
調査名	市民センター改修・新図書館整備に向けたアンケート
調査方法	Web アンケート(※問合せがあった場合は紙面回答にも対応)
調査対象	13歳以上の市内在住・在勤・在学者
調査期間	令和3年8月15日(日)～9月15日(水)
調査内容 (図書館・図書室関連)	属性／図書館・図書室の利用経験 今後の市立図書館の望ましいあり方 等
回収数	244票(Web:171票、紙面:73票)

2) 調査結果

今後の市立図書館で特にできると良い使い方としては、「ゆったりとくつろいで本や雑誌を読む(58.6%)」「静かな空間で落ち着いて調べものや学習をする(58.6%)」が半数以上に選択されたことに加え、「子ども連れで気軽に訪れ、読み聞かせなどをする(32.0%)」「必要な資料・情報を得るために職員へ気軽に相談する(24.2%)」「日常生活に関する知識や情報を得る(24.2%)」などへのニーズも見られました。

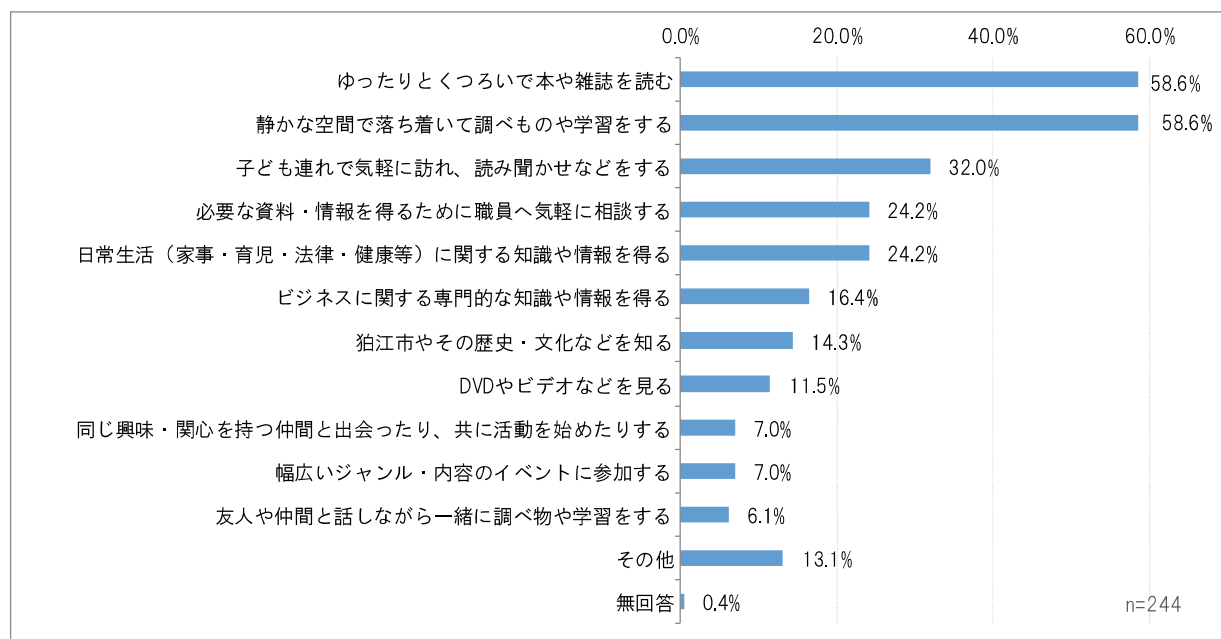


図 2-15 図書館で特にできると良いこと

また、新図書館の蔵書やスペースが限られる場合の利便性確保に必要なことについては、「オンライン上で書架を見るような感覚で本を選ぶ(50.4%)」「開館時間以外にも他施設で予約した資料を受け取る(48.0%)」「図書室等の資料も新図書館ですぐに受け取る(46.7%)」「オンライン上でレファレンスや講座などのサービスを受ける(24.6%)」の順となっており、資料を便利に選ぶことや受け取ること、オンライン上でサービスを受けることなどが重視されています。電子書籍の活用に関しては、「紙の本よりも電子書籍を積極的に収集してほしい(13.9%)」「紙の本の収集が難しい場合には、電子書籍もうまく活用することで資料を増やしてほしい(60.2%)」であわせると74.1%を占める一方で、「電子書籍は使わないため必要ない」は16.4%でした。

新市民センター図書コーナーで重視すべき利用者層としては「子どもや子育て世代(48.0%)」が最多で、図書室の特色化に関しては、「児童書が充実した図書室(27.5%)」「テーマに沿った専門書が充実した図書室(16.8%)」があると良いと続く一方で、「図書館ごとに特色は持たせない方が良い」が23.8%見られました。

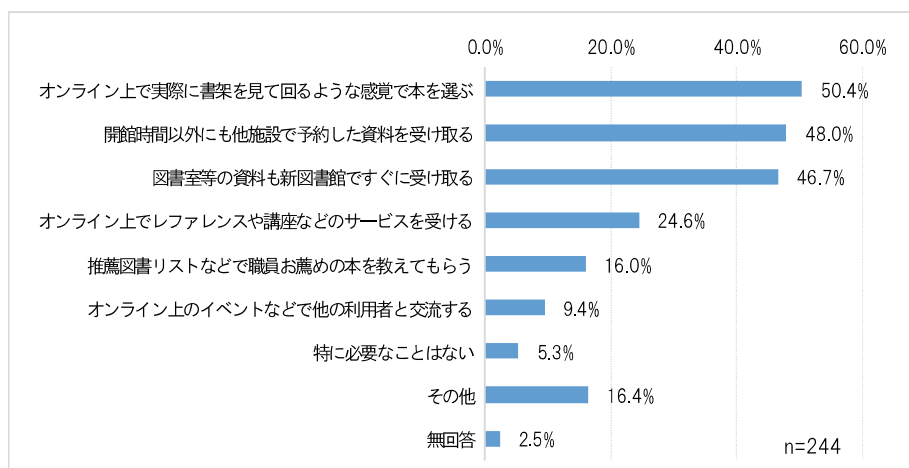


図 2-16 利便性確保のために必要なこと

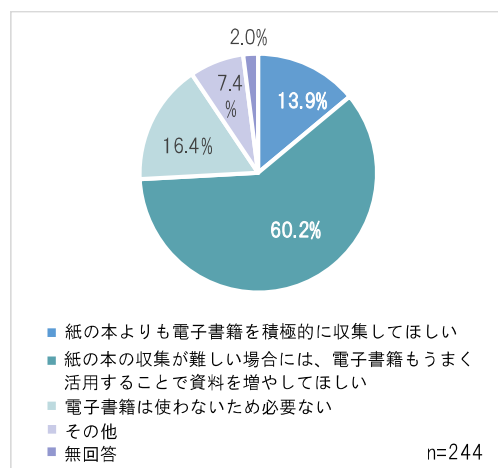


図 2-17 電子書籍の活用について

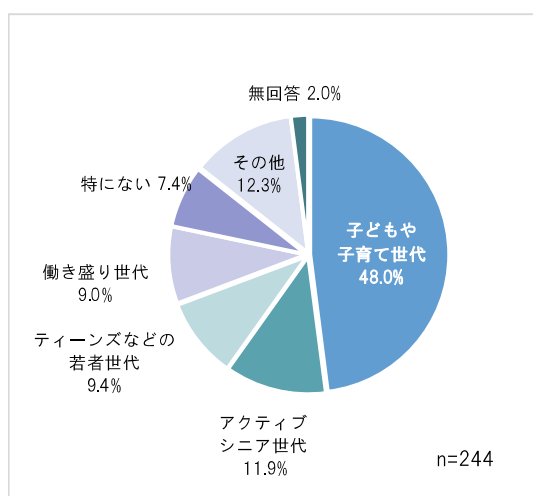


図 2-18 図書コーナーで重視すべき利用者層

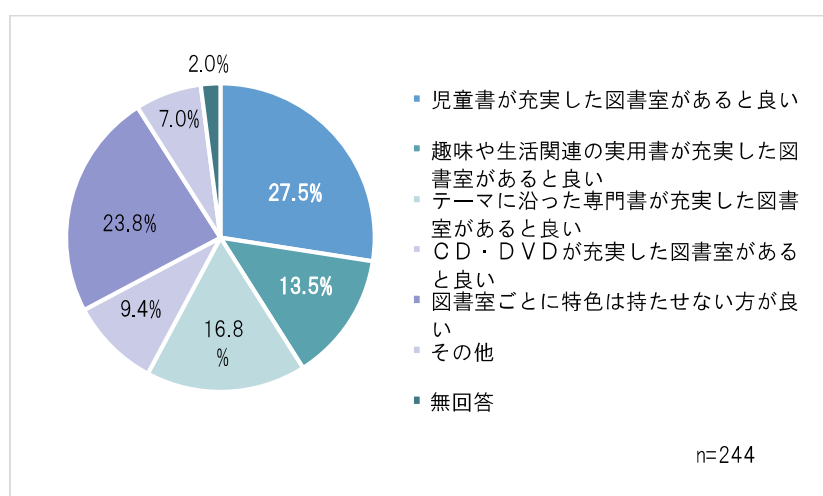


図 2-19 図書室の特色化についての考え方

(3) 市民ワークショップ結果

市立図書館の今後のあり方や新設図書館・市民センター図書コーナーのサービス・施設等について、より具体的に市民の意見やアイデアを取り入れるため、全6回の市民ワークショップを開催しました。

現市立図書館の良いところとしては、各地域に配置されていることによる利用のしやすさや中央図書館の立地の良さ、児童サービスが充実していることや司書対応の良さ等が、改善したいところとしては、蔵書の少なさや施設の狭さ、静かな図書館に子どもを連れていくハードルの高さなど、子連れでの利用のしづらさや、イベントの少なさ等があげられました。

また、それに伴い蔵書の充実や施設面積の拡大、出会い・交流の場としてのサービスを展開すること等が重視され、子ども・子育て世代、学生・若者等を今後の利用者層として期待する意見が多くあげられました。新設図書館と市民センター図書コーナーの位置づけに関しては、それぞれが異なるサービスを担うべきとの意見が多数を占め、具体的には、新設図書館には学習・調査・仕事等に役立つ専門的な資料の収集や地域の交流の場となること、市民センター図書コーナーには市役所利用と親和性の高い子ども・子育て世代向けのサービスや市民のふれあいの場としてのサービスを期待する意見等があげられました。

新設図書館でしてみたいことや必要な空間等では、全体では静と動の場所を分けること等に関する意見があげられました。また、1階には利用の多い資料や狛江の歴史・特徴を発信する資料のコーナーに関する意見が、2階には開架スペースとしての情報の探しやすさ等に関する意見、3階には郷土資料や読書・勉強等のためのスペースに関する意見があげられました。

そして、整備基本構想(案)に盛り込みが必要な内容として、ここまでにあげられた意見等に加え、市内図書館・空間の連携の強化や各施設へのアクセスの向上に関する意見、新設図書館の空間の豊かさを求める意見、市民センター図書コーナーの市民活動支援・ICTリテラシー向上に資する機能等に関する意見があげられました。

表 2-17 市民ワークショップの実施概要

項目	内 容
名称	狛江市の新図書館を考える市民ワークショップ
対象	中学生以上の市内在住・在学・在勤者
回数・期間	全6回・令和3年7月～令和4年6月
参加申込者数	29名
各回テーマ (開催日)	第1回: 狛江市立図書館の良いところ・改善したいところ(令和3年7月11日(日))
	第2回: 今後のサービスや利用者層の方向性を考えよう!(令和3年10月31日(日))
	第3回: 図書館・図書室等それぞれの役割を考えよう!(令和3年12月12日(日))
	第4回: 新しい市民センター図書コーナーの機能・配置・面積を考えよう!(合同)(令和4年4月10日(日))
	第5回: 新図書館のサービスと必要な空間等を考えよう!(令和4年5月15日(日))
	第6回: 新図書館整備基本構想(案)を考えよう!(令和4年6月12日(日))

表 2-18 市民ワークショップ参加者意見概要

第1回			
市立図書館の良いところ		市立図書館の改善したいところ	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各地域にあり市内どこでも利用しやすい ・ 中央図書館は立地・アクセスがよい ・ 児童サービスが充実している ・ 司書の対応がフレンドリー・丁寧 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵書が少ない ・ 狭い／座席が少ない／雰囲気薄暗い ・ 子ども連れで利用しづらい ・ イベントが少ない／人的サービスが弱い 	
第2回			
今後最も重視すべきサービス		期待する利用者層と使い方	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵書の充実 ・ 面積の拡大・学習スペース等の充実 ・ レファレンス等の職員サービス向上 ・ 本の紹介や講座など企画の充実 ・ 出会い・交流の場としてのサービス ・ 電子書籍やオンラインサービス、配送サービスなどの充実 ・ 機械化の推進・最新機器への対応 		子ども・子育て世代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み聞かせ／にぎやかな利用 ・ 職員との交流(学習支援など)
		学生・若者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習(スペースの確保、レファレンス、学習用資料の充実)
		働き盛り世代	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークスペースや機器の利用
		高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅からの利用(電子書籍など)
市民センター図書コーナーの位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・子育て層向け図書館(絵本・マンガの設置、にぎやかな空間) ・ 学習室、ワーキングスペース、コーヒーが飲める場所 ・ コミュニティづくりの拠点／専門色の強い資料を提供する図書館 		
第3回			
それぞれの役割について 図書館・図書室等	新設図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習・調査・仕事などに役立つ充実したレファレンス機能や専門資料 ・ 基本的な資料／狛江に関する資料 ・ イベント・講演会等の会場 ・ 地域のサロンのスペース、自習室、コワーキングスペース 	
	市民センター図書コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども・子育て層向けサービス(子育て世代の市役所利用との親和性)／にぎやかな読書空間 ・ 公民館活動・市民活動に資する資料の提供 ・ 市民同士のふれあいの場 ・ サードプレイスの空間、コワーキングスペース ・ 予約本受取コーナー／障がい者向けサービス 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各図書室は子どもや高齢者向けに／各地域にあることを活かしたサービスを ・ 電子書籍の充実／デジタル格差をつくらないための支援 	
第4回			
市民センター図書コーナーの機能・配置・面積		理由	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども図書館／子育て世代中心／子ども用の本のスペースと読み聞かせスペース 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもと気軽に利用したい／子どもの本を増やしたい／市民センターとの相乗効果 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆったり滞在型／新聞雑誌コーナー／フリースペース／イベントスペース／ブックカフェ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 多世代が交流できる機会が必要／市民センターの交流機能を活かす 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 狛江のコーナー／水害など防災の情報を流す 		<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな目的で訪れる人がいる／狛江を知ってもらいたい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 電子書籍を充実／PCで電子書籍を 		<ul style="list-style-type: none"> ・ シニア層・障がい者にもやさしい／感染症対策／省スペース化 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 予約・受取り等／専門スタッフは置かない 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書コーナーは限定的でよい 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民活動支援センター等と一体化 		<ul style="list-style-type: none"> ・ スペースの有効活用 	
第5回			
新設図書館でしてみたいこと・必要な空間等			
全体	1階	2階	3階
<ul style="list-style-type: none"> ・ 静・動の区別 ・ BGMを流して欲しい ・ 壁が少ない図書館 ・ 明るく魅力的な階段 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貸出の多い本のコーナー ・ 企画展コーナー ・ 狛江市の歴史や企業等の紹介コーナー ・ サロンスペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会・人文、科学、アート関連資料 ・ 開架スペース ・ レファレンスルーム ・ 探しやすいディスプレイ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資料／レファレンス資料 ・ 閲覧席／PC用スペース仕事／勉強スペース ・ 仕事／勉強スペース ・ イベントスペース

第6回

新図書館整備基本構想(案)について	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人から共感を得られる資料／購入(読)しそねた書籍を備えた図書館 ・ 電子図書を増やしてほしい ・ 深夜、早朝の貸出、返却／フリーWi-Fi／仕事、勉強のしやすい、環境スペース ・ 狛江、多摩を知る本のコーナー ・ 5年後、10年後のメインユーザーはどの様に想定するか
	連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新図書館、市内の他の図書館、学校との連携強化／学校と公共の共通貸出システム ・ 地域センター図書室で児童サービスのサポートを(読みきかせ etc) ・ 図書館アプリ ・ 各図書館をつなぐレンタサイクルの整備／こまバスを各図書館を通るルートにする ・ 市民センターから新設図書館へ遊歩道の整備／歩道を公園にしてほしい
	新設図書館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 蔵書数ではなく、空間の豊かさによる利用者数増／他市、他区の利用者増 ・ 行ってみたいくなるような外観デザイン／館内の棚やデザイン ・ 読書調査室が必要
	市民センター 図書コーナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狛江の魅力のコーナーのような場所 ・ 市民活動をサポート出来るようなボランティアの方がいてほしい ・ パソコン、電子書籍端末、コンシェルジュ^{※10}を置いてほしい ・ 子どものみや祖父母と子どもで来館したときの安全面とサービスの向上 ・ 本を読む楽しい場所にしてほしい／作ったり触ったり五感を働かせる展示・機会の提供
	レファレンス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「助かった」と思える図書館／カウンターに相談窓口を／資料相談の掲示 ・ レファレンス機能は絶対に充実させるべき
	バリアフリー ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが使いやすい／視聴覚障がい者対応の設備／身障者用駐車場の確保 ・ 対面朗読・録音室をもっと広く
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンスペースが(カフェ・サロン)自由に使える

(4) 小中高生ワークショップ結果

新設図書館や改修後の市民センターのサービス・施設等について、若い世代からの意見やアイデアを取り入れるため、小中高生を対象としたワークショップを開催しました。

施設・設備に関しては、多様な利用が可能なフリースペースや憩いの空間としてのテラス、PC・Wi-Fi等のICT環境の整備が、サービス・運営面では市民が主体的に企画・活動できる環境づくりや市民同士の世代を超えた交流の場づくりなどを期待する意見が多くありました。

表 2-19 小中高生ワークショップの実施概要

項目	内 容
名称	みんなの思いえがく市民センターと新図書館を考える小中高生ワークショップ
対象／参加者数	市内在住・在学の小学5年生～高校3年生／6名(うち3名はオンライン参加)
開催日	令和4年3月27日(日)
テーマ	新しい市民センター・新図書館を皆さんはどのように使いたいですか？

表 2-20 小中高生ワークショップの参加者意見概要

区分	意見
資料に触れる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開架空間とフリースペースを合体させてビーズクッションなどを置き、そこで借りた本も読める ・ 図書館横のテラスで読書、読み聞かせができるとよい ・ 障がい者や車椅子利用者も使いやすい書架間隔
調べ物・相談	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料・パソコンが利用でき、自由に調べ物や学校の課題ができるスペースがあるとよい ・ 年上の人等が相談相手・話し相手になってくれる
魅力を感じられる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民がオススメの本を紹介できるなど、毎日来たくなる図書館 ・ 守助やえだめえ王子等のキャラクターをグッズ化したり、利用者にポストカード等を配ったりするとよい ・ 掲示板を設置し、イベントの期間・内容を掲示してほしい ・ スタンプラリーのような読書週間イベントを実施 ・ 図書館内数カ所に特集コーナーを設置してほしい ・ 床や壁に絵本の1ページを展示する／写真映えする場所／華やかな見た目
自由な利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ にぎやかな空間をメインとしたほうがよい ・ フリースペースに自習のための資料や5～6人用の机・椅子があるとよい ・ 学校のポスター作成などにも使える、友だちと会話可能な学習スペース ・ 学習スペースを静かに集中できる有料エリアと友だちなどと利用できる無料エリアに分ける
滞在型の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民センターのテラスの天井をガラス張りにし、植物を植える ・ 吹抜けを設けて緑の中庭とし、「水と緑のまち」のアピールも兼ねた休憩の場にする ・ テラスで飲食できる／カフェ／BGMが流れている場所
運営への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民が自由に図書館のために活動できるとよい／まちを盛り上げるイベントを企画したい／劇を開催したい／花を植える、枝豆を育てる／おすすめの本に自由にPOPを書きたい ・ 市をPRするポスター、イラスト、動画等のコンテストを開催し、作品を市役所に展示 ・ 地元で社会福祉に関わることを学ぶイベントがあるとよい
市民活動・市民同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段関われない人と関われる、友だちを作れる／世代を超えて人と関われるイベントの開催 ・ 施設に通う人が増えるよう、絵はがき講座、プログラミング講座等の習い事教室が開催されるとよい ・ 女子会、ママ友会に利用／事前に予約したら利用できる空間 ・ 音楽スタジオ／楽器の演奏／地場野菜の宣伝の場
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風等で自転車が倒れにくい駐輪スペース／傘の貸出サービス／無料Wi-Fi等があるとよい ・ 個人で買いづらい専用ソフト等が入ったパソコンやタブレット

(5) 関係団体等ヒアリング結果

図書館個人ボランティア、図書館ボランティア団体、図書館利用支援サービス協力員、福祉関連団体を対象に行ったヒアリング調査では、ボランティア活動専用スペースや飲食できるスペースの設置、障がい者が利用しやすい環境の整備等の要望や「子ども図書館」の設置を希望する回答がありました。

また、福祉関連団体からは、対面朗読室・録音室の設置を検討してほしいとの意見や、障がい者が利用しやすいトイレの設置、電子書籍の拡充、Wi-Fi やタブレットの設置といった ICT 環境の整備に関する要望がありました。

表 2-21 関係団体ヒアリング結果

種別	ご意見の概要
図書館 個人ボランティア (22名)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動用の部屋がほしい／現在より広さがほしい／市民センター内が良い／ボランティア団体専用の倉庫がほしい ・活動後にフリーに学習できるスペースや、飲食スペース等があると良い ・視覚障がい者向けの資料や機器等を充実できると良い／点訳絵本の認知と活用をしてほしい ・障がい者にも使いやすい出入り口や棚の配置に配慮してほしい ・老若男女が集える公園のようなフロアにしてほしい ・パソコンやコピー機を増やしてほしい
図書館 ボランティア団体 (1団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動用のスペースがあると良い ・遊び場も併設した「子ども図書館」があると良い ・新図書館整備に伴う休館期間も活動を継続したい
図書館 利用支援サービス協力員 (1名)	<ul style="list-style-type: none"> ・録音の依頼が多々あるため、独立した録音室がほしい ・機器にお金がかかるため、市で負担すれば担い手が増えるのではないかと ・音訳者を増やすため、募集や講習会を毎年実施してほしい
福祉関連団体 (6団体)	<ul style="list-style-type: none"> ・対面朗読や手話対応等を充実してほしい／サービスを周知してほしい ・視聴覚資料を新中央図書館に置いて充実すべき／手話・障がい関連資料を置いてほしい／電子書籍をもっと増やしてほしい／視覚障がい者のために音声文字変換アプリや遠隔手話通訳が利用可能なタブレットを設置してほしい／視覚障がい者のためにデータベースと専用のパソコンを設置してほしい ・打合せ・調べもの・活動用のスペースがほしい／対面朗読室や録音室がほしい／自習室があると良い／予約制の個室がほしい ・車椅子用や洋式トイレを増やしてほしい ・障がい者が講習会等に参加できるような環境(Wi-Fi や磁気ループ等の設置や出入口の広さ等)を整備してほしい ・市民の憩いの場となるようなコミュニケーションができ、情報が得られる図書館にしてほしい

5. 新図書館整備計画地の敷地条件

表 2-22 新図書館整備計画地の敷地条件

項目		内容
所在地		東和泉1丁目 1937-1、1937-3(狛江市商工会館、駄倉地区センター)
敷地面積		585.45 m ²
接道	北東側	市道 629 号線(幅員 4m)※建築基準法上の道路ではない(隣地、空地扱い)
	南西側	都道 11 号線(幅員 20.5m、20.5-16m) ※事業完了区間
地域地区等	用途地域	近隣商業地域、第一種中高層住居専用地域 ※用途地域区分:都道 11 号線道路境界から 20m
	建ぺい率	80%(近隣商業地域) 60%(第一種中高層住居専用地域)
	容積率	200%
	防火地域等	準防火地域
	日影規制	高さが 10mを超える建築物 4-2.5h、H4m(近隣商業地域) 高さが 10mを超える建築物 3-2h、H4m(第一種中高層住居専用地域)
	高度地区	30m第二種高度地区(近隣商業地域) 25m第二種高度地区(第一種中高層住居専用地域)
	地区計画	なし



図 2-20 新図書館整備計画地

6. 現市立図書館が抱える課題

(1) 幅広い層にとって利用しやすい環境づくり

市の関連計画で「生涯を通じた学べるまち」として図書館の利用率向上を目指していること、また現在の登録率が約26%であり、特に若者や中高年以上の世代で登録率が低いことなどを踏まえると、今後はより幅広い層のニーズに対応し、積極的かつ継続的な利用につながる環境づくりに取り組む必要があります。乳幼児から高齢者まで、子育て世代や働き盛り世代、障がいのある方や外国人を含むさまざまな利用者にとって親しみやすさや使いやすさが求められます。



(2) 音楽・絵手紙、自然等の魅力を活かしたまちづくりへつながるサービスの充実

将来都市像として「ともに創る 文化育むまち」を目指す狛江市の図書館として、「音楽のまち」「絵手紙発祥の地」であることや、自然が豊かであることを踏まえたサービス、歴史を活かしたサービスを展開し、「狛江市らしい」「狛江市ならではの」魅力や文化の創出・継承に貢献することが求められます。



また、現市立図書館では個人・団体ボランティアとの連携を積極的に進めており、図書コーナーが市民活動支援センター等を含む市民センター内の施設となることを踏まえ、本と人だけでなく人と人を結ぶサービスに取り組んでいくことが必要になります。

(3) 市民ニーズと将来展望の双方を踏まえた適切な蔵書規模・構成等の実現

現在の市民1人当たりの蔵書冊数は人口同規模市等と比較して少なく、市民アンケートや市民ワークショップでは蔵書数・種類の充実が望まれています。また、既に導入しているこまね電子図書館では働き盛り世代の利用が多く、さらなる充実を望む意見が見られます。



そのため、他市の蔵書水準や本市の将来人口、電子図書館の利用状況やその活用に関する市民ニーズ、電子書籍の出版動向、新設図書館及び改修後の市民センター図書コーナーで確保可能な面積などを踏まえつつ、本市として望ましい蔵書の規模や構成、適切な所蔵方法の実現を図ることが必要となります。また、それらの利用を促進し、適切に管理していくためのICタグシステムの活用が不可欠です。

(4)新設図書館の規模等を踏まえたより効果的な機能配置

新設図書館の施設規模は1,100㎡程度を想定していることから、限られたスペースの中で機能的で利用しやすい新しい図書館を整備します。

今後の市立図書館に対しては、子育て世代への対応や資料提供以外のサービスの充実、各種スペース設置の必要性等の面から多様な市民ニーズがあることから、新設図書館や改修後の市民センター図書コーナー、地域センター等図書室それぞれの規模や立地環境等を考慮し、限られた資源を有効活用することのできるネットワーク機能を実現することが必要です。



(5)市民や地域との協働、他機関との連携の実現

粕江市では以前から市民同士のつながりが強く、これまでも市立図書館の子ども向けおはなし会事業や利用支援サービス事業を市民ボランティアの協力を得て展開してきました。また、他市で市民サポーターを始めとする市民と積極的に連携した活動が展開されていることを踏まえて、今後はより一層市民や地域との協働が求められます。



あわせて、幅広い市民の多様なニーズに対応するためのサービスを充実する上で、市内他機関とのさらなる連携が不可欠となります。

第2章 新図書館整備基本構想

1. 新図書館を含む市立図書館全体のあり方

(1) 市立図書館が今後目指す方向性

今後の市立図書館では、**新設図書館と市民センター図書コーナー(改修後)で形成される新図書館が核となり、コンパクトなまちを活かしたサービス網を構築**します。電子図書館の効果的活用も含め、既存の図書室や学校図書館と連携を図り、市全体で図書サービスの充実を図ります。

そして、より多くの市民にとって身近で役立つ存在であり続けるため、「**市民の学びや暮らしを彩り、狛江の実りを未来へつなぐ図書館**」となることを目指します。市民一人ひとりのより豊かな毎日の実現に寄与するため、人生のマルチステージ化^{*11} や ICT の進展等に対応しつつ、図書館・図書室から形成される市内サービス網を活かし、子どもから高齢者、障がいのある方を含むあらゆる市民に必要な学びの場や機会を市内全域で提供します。あわせて、「**ともに創る 文化育むまち**」を目指す**狛江市の図書館**として、多彩な知や文化が循環する拠点となることで、まちの課題の発見・解決及び持続的な発展に向けて取り組みます。

新図書館を核とするサービス網の考え方

- 新図書館(新設図書館+市民センター図書コーナー(改修後))を核とし、電子図書館も効果的に活用してコンパクトなまちを活かしたサービス網を構築



新図書館=新設図書館+市民センター図書コーナー

新図書館を核とする市立図書館が今後目指す姿

市民の学びや暮らしを彩り、 狛江の実りを未来へつなぐ図書館

- 市内全域で子どもから高齢者まであらゆる市民に必要な学びの場や機会を提供
- 多彩な知・文化の拠点となり、まちの課題の発見・解決や持続的な発展にも貢献


サービスの考え方

多くの市民にとって役立つ図書館として利便性を向上させ、気軽な利用を促すため、資料提供・レファレンス・利用支援等の**既存サービスの充実や周知、ハイブリッド※¹²サービスの拡充、新図書館が新設図書館と市民センター図書コーナーが一体としてサービスを提供することに配慮したサービス、セルフ貸出・返却サービスの導入等**に取り組みます。

また、狛江市の特色を踏まえ、子どもの読書習慣の形成や子育て世代の居場所づくり、**働き盛り世代のスキルアップ、シニア世代の生きがいづくりに資するサービスを積極的に展開**します。さらに、**まちの特色である音楽・アートに関連したサービスの提供や、まちの歴史の発信、市民及び他機関との連携等**を重点的に進め、図書館やそこにある本を通じて利用者とまちの出会いを促します。


例えば、**新設図書館**ではこんな使い方…

大人・ティーンズ向けサービス



大人

忙しい平日でも予約資料を自動貸出機でさっと受取り
週末にはコーヒーを片手にじっくり読書
駅前ライブなどで聴いた曲の楽譜探し
副業に必要なビジネス・ICT 関連情報を収集
わからないことはカウンターですぐに相談 など



ティーンズ世代

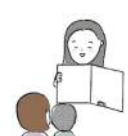
夏休みの自由研究で、多摩川について調査
レファレンスサービスで紹介してもらった大人向けの本にも挑戦
友達と一緒にバンド関連の資料に熱中
週末にはボランティア活動に参加し、おすすめ本をポップで紹介 など

その他

子ども向けのツアーを通じて将来の使い方をイメージ
電子書籍の音声読み上げ機能を通じて聴く読書
図書館を使ってみるため、ホームページから母国語で情報収集
出歩くのが困難な方には、宅配サービスを通じて大活字本を利用 など

例えば、**市民センター図書コーナー**ではこんな使い方…

乳幼児・保護者




引っ越してきたばかりの親子でも、おはなし会を通じて顔見知りになり、周りに気兼ねすることなく、親子でほっこり読み聞かせ
子育て支援コーナーで関連情報収集
親子と一緒にボランティア活動に参加 など

子ども


クラスメイトや先生と一緒に図書館見学
兄弟と一緒に本を借りて、読書履歴を貯める など

子ども向けサービス



大人

定年退職後に講座を通じて地域デビュー
新聞や雑誌片手に仲間同士で雑談
まちづくり活動の合間に情報収集
サークル活動や子どもの本を選ぶついでに興味に関する本も受取り など



その他

点字資料、録音資料になっていない資料も対面朗読を通じて内容を把握
次回のおはなし会に向け、読みたい絵本を持ち寄って話し合い など

資料の考え方

資料の充実を望む市民ニーズへの対応と今後目指すサービスの実現を図るため、サービス網全体で蔵書を充実するものとし、**他市水準も踏まえて市全体で約 33 万冊以上**を目指します。現在の地域センター等図書室の蔵書冊数が約 12.6 万冊であることから、新設図書館及び市民センター図書コーナー(改修後)の蔵書はあわせて 20 万冊程度を想定します。なお、限られた面積を有効活用するために新設図書館と市民センター図書コーナー間では蔵書を重複させず、あわせてこまめ電子図書館を拡充することでタイトル数の充実や新たな読書形態への対応を図ります。

(参考)市全体の蔵書冊数の考え方(約 33 万冊)

- 現在の狛江市の人口(約 83 千人)と、人口同規模市(66 市)及び多摩地域(26 市)の水準、望ましい基準目標基準例を踏まえると、狛江市立図書館全体で必要と考えられる**蔵書冊数は約 33～43 万冊**
- 今後も継続して ICT の進展が想定されることや、狛江市でも将来的に人口減少が見込まれることを踏まえ、市立図書館で目指す蔵書冊数は人口同規模市水準である**約 33 万冊**を目標値に設定

表 2-1 他市水準等を踏まえて必要と考えられる蔵書冊数

番号	区分	人口1人当たり蔵書冊数(冊/人)	狛江市人口(人)	同水準とする場合の狛江市全体での蔵書冊数(冊)
1	人口同規模(8～10万人)66市平均	3.93	83,013	約 326,000
2	多摩地域26市平均	5.12		約 425,000
3	望ましい基準(人口8～10万人)	4.80		約 399,000

※ 「日本の図書館 2020」及び「図書館の設置及び運営の望ましい基準(平成 24 年 12 月 文部科学省)」から作成
 狛江市人口は令和4年4月時点

機能配置の考え方

市立図書館の一層の機能強化を図るため、距離にして315m(徒歩4分)程度を隔てて立地する**新設図書館と市民センター図書コーナーの2施設で一体の新図書館を構成し、それぞれに職員を配置するとともに規模や立地を踏まえて機能やサービスを分担**します。また、地域センター等図書室では配送サービスの拡充により新図書館との連携を図り、ネットワークの強化に努めます。あわせて、西河原公民館の図書室では、新図書館と連携を図りながら、その公民館活動に関連した資料・情報の提供機能の強化を図ります。さらに、既に展開しているこまえ電子図書館では、来館が難しい市民やデジタル資料に慣れた世代の市民へのサービスを担い、新図書館(新設図書館+市民センター図書コーナー)・地域センター等図書室・電子図書館が一体となって市内サービス網を構築します。

(2)各図書館・図書室等のあり方

今後の市立図書館が目指す「市民の学びや暮らしを彩り、狛江の実りを未来へつなぐ図書館」としての各図書館・図書室等の役割は以下のように考えます。

主に新設図書館が大人やティーンズ向けのサービス、市民センター図書コーナーが子ども向けのサービスを担い、地域の本棚として西河原公民館図書室や地域センター図書室が、いつでも誰でも利用可能な電子図書館と一体となり、ハイブリッドライブラリーとして未来へつながる資料・サービスを提供していきます。

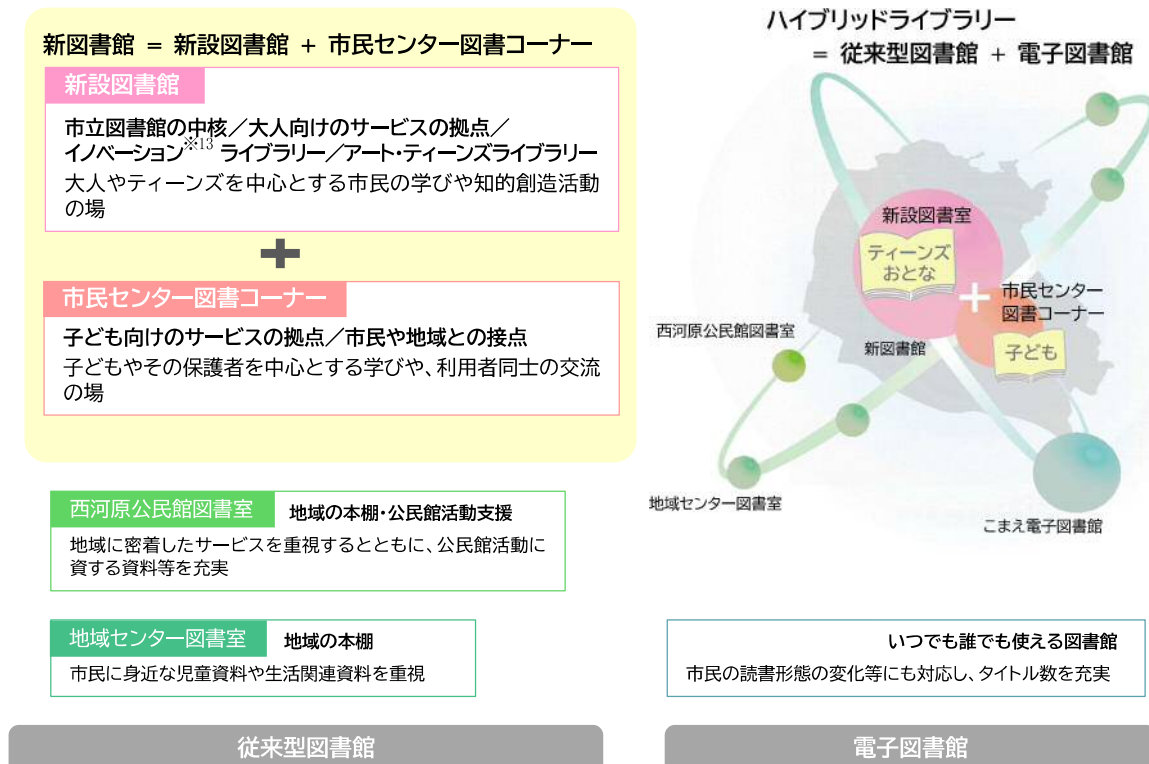


図 2-1 あり方イメージ



新設図書館のあり方

ネットワークハブ
静寂、知的創造活動

市立図書館の中核

新設図書館は、市民センター図書コーナー(改修後)と一体となって狛江市の新図書館を構成し、サービス網の中核として、市立図書館を運営するためのサービスの企画や蔵書の構築、地域センター等図書室との連携やそれらの活動の支援、各種調整、広報に取り組みます。

大人向けのサービスの拠点

駅に近接した立地や確保可能な面積等を踏まえ、新図書館のサービスのうち、主に大人を対象とするサービスを担います。市民の知的的好奇心を刺激する最新の資料・情報や狛江市の過去・現在に関連する資料を揃えるほか、レファレンスサービスや暮らし・仕事に役立つサービスの充実を図ることで、これまで図書館利用に疎遠であった層を含むすべての市民の読書や学びを支援します。

イノベーションライブラリー(ICT・学び関連資料・情報)

「ともに創る 文化育むまち」の図書館として、市民がさまざまなアイデアを生み出すために必要な ICT や多様な学びに関連する資料・情報の提供に重点的に取り組みます。



アート・ティーンズライブラリー(芸術関連・ティーンズ世代向け資料・情報)

狛江のさらなる魅力づくりや中高生等の利用促進に向けて、音楽・美術関連やティーンズ世代の関心に応えられるような資料・情報を広範囲に収集・提供します。



市民センター図書コーナーのあり方

オープン、賑わい
多世代交流

子ども向けのサービスの拠点

市民センター図書コーナー(改修後)は、新図書館のサービスのうち、主に子どもを対象とするサービスを担います。市民センター内の施設で市役所に近接していることや確保可能な面積等を踏まえ、親子で気軽に立ち寄り、本や他の利用者とのびのびと触れ合うことができる場や機会を提供します。



市民や地域との接点

現在の図書館ボランティアの活動が市民センター内で行われていることから、市民センター内へ移転する市民活動支援センターとも密に連携し、一体となってさらなる市民や地域との協働の推進に向けた窓口を担います。市民センター機能を活用し、新図書館としての主な行事・イベントを行うほか、利用者同士の交流や情報交換、市民主体の活動に資するサービスやスペースを効率的に提供します。



西河原公民館図書室のあり方

地域住民・団体活動

地域の本棚

西河原公民館図書室は地域に親しまれていることから、子どもや親子連れ、高齢者等幅広い利用者に対して地域に密着したサービスを提供します。

公民館活動の支援

公民館図書室であることを踏まえて館内の他の活動と有機的につながることを目指し、市民センター図書コーナーと連携しつつ、西河原公民館で開催する講座やイベントに関連した資料・情報や、団体活動等に資する資料・情報を幅広く提供します。



地域センター図書室のあり方

地域住民・独自色

地域の本棚

子どもをはじめとする地域住民による利用が多く、地域に密着した蔵書構成である現状から、今後も地域特性を踏まえた上で児童資料や生活関連資料の充実を図り、地域のニーズに応えたきめ細かな蔵書構成としていきます。



こまえ電子図書館のあり方

アウトリーチ
デジタルネイティブ

いつでも誰でも使える図書館

蔵書の充実を望む市民のニーズや、ICTの進展に伴う市民の読書形態の変化等に対応していくため、ハイブリッドライブラリーを担う一翼の図書館として、内容の拡充とさらなるPRを図っていきます。現在は働き盛り世代による利用が多いことから、今後はタイトル数を増やすだけでなく、実用書等を増やすこと等で利用ニーズに対応していきます。また、デジタルネイティブ^{*14}世代が増えていく中で読書の方法が多様化し、耳で聴く読書(オーディオブック)などが一般化している状況から、それらのニーズに対応するタイトルの充実を図ります。